

あくていぶ



わがまちたかつき
切り絵紀行

「芥川のこいのぼりフェスタ」

切り絵 作：生地 高芳(高槻市在住)

特集

ひと・まち・つながる

まちづくり協会の特任講師による対談

高槻市人権まちづくり協会（以下「まち協」）は、昨年おかげ様で創設10周年を迎えました。10月に開催された記念事業にはたくさんの会員に参加を頂き、改めて皆様に支えられた10年であったと感じました。本号は、人権を学ぶ大切さや今後の課題などを、長く人権にかかわってこられた、まち協特任講師の檀上さんと横山さんのお二人にお話をうかがいました。



司会 まず、人権に関わられた経緯や、思いを聞かせてください。

横山 高槻市役所障がい福祉課等に在職中にも、市内の小・中学校、自治会などで「障がい者福祉・人権」出前講座を、また休日には市内外の高齢者・障がい者施設をまわりました。人生が100年？ 51歳の時もっと多くの人と出会い交遊して、みんなが楽しく笑って生きていける社会づくりに関わりたいと市役所を退職。平成19年から「ごきげん企画 楽笑屋」を立ち上げ、日々出会いを求めて、落ち着きなく出かけています。

檀上 私の人権とのかかわりは、一つ目は、高槻の学校を卒業したボランティアをしている高・大学生に話を聞く機会があり、ほぼ全員が人権学習は「一番嫌だった」と答えてくれました。理由は、人権の時間は冗談を言えば先生がものすごく怒る、笑えば怒られる、暗い話ばかり、やばい事を言うとなんでもない事になるから何も言えなかった、といわれました。私は生徒にこういう思いをさせていたのかという責任を感じました。

二つ目は、在職中 PTA さんから言われた「させられる」。また人権講座ですか？ また動員ですか？ 無理やり押しつけた「学ばなければならない」「すべき」「ダメ」という言葉。教え込みの人権教育では、差別と向き合う人は育たないのではないか、自ら主体的に学ぶ場が必要ではないかと感じました。

三つ目は「差別された方も誇りをもって生きている」という本に出会い、感動しました。人権は心が温かくなるような「笑いあえる、主体的、感動的」で、また聞きたいと思えるようにしないと高槻から差別はなくならないと思いました。

司会 活動されてきた中で、思い出や印象に残っていることは？

横山 人は比べるのではなく、つながっていく事が大切。「比べる」を手話で表すと片手を上げたら、反対の片手は下がり、



檀上 富雄さん

高槻市在住（現まち協特任講師。元高槻市立小学校長、元まち協人権啓発指導員。）

主な講演内容：「子育て・親育て～ほめ方・叱り方」「コミュニケーション力で友達を増やして人生を豊かに」

天秤にかけるようなジェスチャーになる。これでは両方が上がることはない。同じ高さでまじわる社会でないと、みんなが笑顔にならない。今も全国各地にボランティアで出向いているが、スーパーボランティアで有名な尾島春夫さんは力仕事をして、お茶やお礼もうけとらず帰っていく。比べて私は力仕事が全くダメ。だけどしゃべるボランティア（紙芝居や玉すだれ）ならできる。そして、一緒にお茶を頂いて笑い合う。尾島さんのようにはなれないが、人は「比べ」なくても、自分にできることは必ずある。

檀上 まち協とは発足 1 年前の設立に向けて紆余曲折した時期から人権啓発指導員としてかかわりました。私に求められたのは、学校や PTA と単位会を結ぶこと。小学校に在職中に初めて修学旅行を広島に決めた時、周りから大反対を受けました。しかし、まち協が企画する夏の平和展で、各小学校の広島修学旅行（平和学習）の取り組みを DVD で放映した事で、平和学習への理解が広がり、DVD を出す学校も全小学校に広がりました。平和展の音楽祭「愛・いのち・平和」も、当初は参加者がなかったが、平和教育が大切だと教職員の退職者が教え子のグループを紹介してくれ、そして次第に市民に広がりました。いろいろな本気が高槻の人権をつくってきました。

また阪神大震災では被災地へ水を背負って何度も運びました。テレビでは見えない、ガスや汚物の「におい」の中での生活は、現地に行かないとわからない事。まち協の人権バス研修も、現地で交流し、学んだことを家庭や地域に帰ってたくさん語られる、生かされることに意義があると思います。

司会 音楽祭も今は抽選で出演団体を決めるほど盛況になりました。では、これからの課題で意識されていることは？

横山 これからの超高齢社会、死にゆく人への尊厳がとても大切だと思います。国は 2025 年までに「地域包括システム」を構築させるといっています。私自身も実母の介護を経験したなかで、介護と医療の連携に戸惑ったり、現場で



横山 勝一さん（交遊亭 楽笑さん）

高槻市在住（現「ごきげん企画 楽笑屋」大笑い福祉使、楽語家、まち協特任講師。元市職員。）

モットー：いつも ころに 逢い・ラブ・遊

主な講演内容：

「むすびあい 心がかよう 地域の輪」

趣味：料理（煮物作り）



司会:岩崎 律雄

(現まち協会人権啓発指導員。
元高槻市立小学校長。)

主な講演内容:「障がい者問題」「生き物のいのち」など

趣味:ひょうたん作り

働く人たちの人権意識も高いとは言い難い現実を考えさせられました。

檀上 講座の感想では人権はいらないという人は全体の3%。市民の意識調査ではマイナスイメージはもっと多い。ご飯が食べられないのと違って、人権はなくても生きていけるからつい忘れてしまう。繰り返し啓発によって、その大切さを気づくようにしなくては差別がなくなる。負の部分(ー)だけを見るような効率主義に惑わされず、少しの

広がりプラスとして考え、押し付けではなく、自ら学ぶ、考える草の根運動をこれからも大切にしてほしいですね。

司会 たくさんの方たちが高槻の人権を築き上げてこられたわけですから、これからも知恵を絞って人とつながっていきます。お元気でご活躍いただき、ぜひご指導ご鞭撻くださいますようお願い致します。本日はありがとうございました。

あちこち訪問

塩崎おとぎ紙芝居博物館

大阪市西成区花園南1の12の24



戦後、子どもたちの心をとらえてはなさなかつた街頭紙芝居は、みんなに夢を与え続けました。その紙芝居は「月光仮面」や「黄金バット」など、この塩崎おとぎ紙芝居博物館で2万巻以上も保管され、紙芝居師によって口演され生き続けています。訪れた日も紙芝居を見る子どもたちのいきいきとした笑顔と、元気な笑い声があふれていました。

ずいぶん前から、今回の訪問を心待ちにしていた。まず博物館の表の雰囲気や、のぼりが気に入り、出たり入ったりしてまるで不審者。どの部屋も壁いっぱい埋め尽くされた紙芝居の量に圧倒された。この博物館は初代絵元の塩崎さんが住まわれていた家で、周囲に馴染んだ机、棚、引き出しなどほとんどが手作りだという。ここで多い時には7家族の画家が同居。分業で、裏書・線画・絵付け・台紙貼りを行い、生活の糧としていた様子が残されていた。



口演中も子どもたちとの対話はずむ

子どもを愛し、平和への願いや、社会への疑問を紙芝居に託し、日々、仕事に没頭したであろう塩崎氏。

願わくば、この博物館を後世につなげ、永遠に語りつがれていかれんことを…。



参加者の感想

●「対話なくして平和なし」塩崎さんの妻ゆうさんが、雑誌の取材で語られた言葉です。物語はもちろん、子どもの突拍子もない質問も優しく返し、一方通行のテレビにはない時間が魅力的でした。

●「はい、今日はここまで」。ちょっと盛り上がり上がったところで終わり。「え〜」と思わず口に出た。子どもたちの明日が待ち遠しい気持ちで想像できた。

●以前、平和展で紙芝居師「つるちゃん」にお会いした時、風呂敷に包んだ四角い物を、他の荷物と一緒にすることもなく胸元に抱くように持っておられたことを思い出した。それは使い込まれた紙芝居だった…。受け継いでおられる人たちの熱い思いを感じるとともに、私の心も熱くなった。

●大戦直後の人たちの生活状況が偲ばれる館内には、紙芝居にまつわる資料が大切に、大切に保管されていた。博物館を守っているみなさんの、日本でただ一人の街頭紙芝居の絵元だった塩崎さんへの思いが伝わってきた。

●街頭紙芝居は、昭和時代の世界にタイムスリップしたよう。善人には拍手喝采、手に汗にぎり、想像力をかきたてられた。紙芝居、水あめ、型抜き…不思議な魅力に、集まる子どもたちとワクワク感じっぱいになった。

●街頭紙芝居は、昭和時代の世界にタイムスリップしたよう。善人には拍手喝采、手に汗にぎり、想像力をかきたてられた。紙芝居、水あめ、型抜き…不思議な魅力に、集まる子どもたちとワクワク感じっぱいになった。

人権を考える市民のつどいを開催

人権週間記念事業として平成30年12月7日(金)、8日(土)の2日間にわたり、人権を考える市民のつどい「多様な性を自分らしく生きる ～一人ひとりを大切にする社会～」(主催:高槻市、企画運営:高槻市人権まちづくり協会)を開催しました。

男性の女性弁護士 仲岡しゅんさんを迎え講演会

性的マイノリティって何？

～楽しく学ぶ、ジェンダー、セクシュアリティ～



▲仲岡しゅんさん

「仲岡しゅん」さんは大阪生まれの大阪育ち、学生時代にマイノリティに対して親近感を覚え「社会の隅っこにおかれた人々の味方になりたい」「夜の仕事しかない印象のトランスジェンダーである自分も、別のフィールドで勝負がしたい」と弁護士を志しました。戸籍上の性別は男性ですが、女性弁護士として活動されています。

「性って何?」「人を生きづらくしているものって何?」最近よく耳にする〔LGBT〕(Lesbian / Gay / Bisexual / Transgender) など、自己認識のあり方はさまざまで、自分自身が決めるものです。

子どもの性的マイノリティは、早い子では幼少期から自覚するようです。そのころから、いろんな人がいて、自分一人ではないことが意識できる社会のありがたが大切です。カミングアウトされたら否定から入らず、自分に打ち明けてくれたことの信頼関係を大切に、身近な大人たちがポジティブな言葉で対応し、受け止めることが必要だと力説されました。

特別展

特別展では「ココロとからだ、多様な性を知ろう」と題し、〔LGBT〕に関するパネル展示やアニメによる小学生を対象に制作された映像、インターネットコーナーを設けてより詳しい情報検索できるブース等があり、約800人が訪れ、パネルなどを熱心にみておられました。



多様な性を知ろう▼

人権週間って何？

国際連合は、昭和23年12月10日、世界における自由、正義及び平和の基礎である基本的人権を確保するため、全ての人民と全ての国とが達成すべき共通の基準として、世界人権宣言(*)を採択したのに続き、昭和25年12月4日、世界人権宣言が採択された日である12月10日を「人権デー」と決めました。

日本においては、同宣言が採択されたことを記念して、1949年(昭和24年)から毎年12月10日を最終日とする1週間(12月4日から同月10日まで)を、「人権週間」と定めています。

*世界人権宣言とは、第二次世界大戦の反省から、基本的人権尊重の原則を定めたものです。2018年で制定70周年を迎えました。



ご自身が学童保育で女性指導員として働かれた経験をもとに、生まれた瞬間から死ぬまで続く性の問題を、子どもたちにどのように伝えたか…色紙を使って分かりやすく、楽しく実演していただきました。壇上から話すだけでなく、積極的に客席の中に入っていき、質問を投げかけたりと、会場も一体となって和やかな雰囲気の中、〔LGBT〕への理解を深めました。

講演終了後、参加者から「皆さん、仲良く生きたいですね。」「知らないことが差別につながり、一番怖いと思いました。」「いろんな人、いろんな生き方があっていい。」という感想をいただきました。

府で入選

大阪府府民文化人権局が募集した第37回人権啓発詩・読書感想文にて、中学校の部で阿武山中学校1年の森花奈子さん(タイトル「一番の凶器」)が入選されました。

友だちの涙に



人権啓発作品入選作品を展示

人権啓発作品として「作文」「絵画」「標語」の3部門を市内小中学校、一般から募集したところ、作文1,120点、絵画474点、標語1,572点、計3,166点の応募があり、部門ごとに最優秀賞1点、優秀賞4点、佳作10点が選定されました。

また12月7日、8日の2日間展示ホールにて作品を展示しました。

◀平成30年度絵画の部最優秀賞作品

平成30年度人権啓発作品入選者一覧

作文の部

入選	氏名	作品名	学校名等
最優秀賞	杉山 梓	より良い街づくりに向けて	第十中学校2年生
優秀賞	岡上宏太郎	助け合いのピラミッド	五百住小学校5年生
優秀賞	匿名	当事者から見えるLGBTQの現状	
優秀賞	高橋 美樹	私がおばあちゃんになったとき	芝谷中学校3年生
優秀賞	匿名	いじめをなくそう	芝谷中学校
佳作	▶木下桜香(北日吉台小学校5年)▶井上和奏(清水小学校6年) ▶林 実悠(五百住小学校5年)▶河合希美(第三中学校1年)▶ 川島朱音(阿武山中学校2年)▶武内彩花(第二中学校2年)▶山 本來未(第一中学校1年)▶岡林歩実(第九中学校2年)▶角丸真 希(第一中学校2年)▶竹川暖人(第二中学校2年)		

標語の部

入選	氏名	作品名	学校名等
最優秀賞	水原 愛心	勇気だそうあなたの勇気が あの子の光	柳川小学校6年
優秀賞	井上 栞菜	心の風せん われるまえに相談を!!	磐手小学校5年
優秀賞	竹中 雪姫	笑いたい 泣いているのはもういやだ	磐手小学校5年
優秀賞	亀井 結愛	また一つ いじめで笑顔が消えていく	冠中学校1年
優秀賞	寺地 心彩	ともだちは力をつなげてね 心つなげる	若松小学校2年
佳作	▶深谷楓真(桜台小学校5年)▶清水彩生(桜台小学校5年)▶藤 田梨生(桜台小学校6年)▶相原光希(阿武山中学校2年)▶原口 七那美(寿栄小学校5年)▶奥平陽妃(寿栄小学校5年)▶三宅星 菜(寿栄小学校4年)▶岡本 宙(磐手小学校5年)▶山地 開 (若松小学校6年)▶吉留 翔(如是小学校4年)		

絵画の部

入選	氏名	作品名	学校名等
最優秀賞	川越 翔生	いじめをなくす	北日吉台小学校5年生
優秀賞	竹内 悠衣	自分の個性を大切に	北日吉台小学校5年生
優秀賞	平島 綾子	自分らしく生きる	北日吉台小学校5年生
優秀賞	佐々木 麗	思いやり	西大冠小学校6年生
優秀賞	今野 喜浩	WE HOPE WORLD PEACE	如是小学校6年生
佳作	▶谷本紗代(西大冠小学校6年)▶石垣瑠唯(西大冠小学校6年) ▶山脇真緒(津之江小学校1年)▶伏木心美(阿武野小学校6年) ▶内田みのり(阿武野小学校6年)▶山口日華里(第一中学校2年) ▶重松 滯(北日吉台小学校2年)▶粟飯原 楽(北日吉台小学校2年) ▶小林優楓(北日吉台小学校2年)▶西井千花子(北日吉台小学校2年)		

人権啓発作品入選者を表彰

12月8日に人権啓発作品入選者表彰式を行い、入選者に賞状と記念品が高槻市長から手渡されました。入選者によって「高槻市人権擁護都市宣言」が朗読され、会場に訪れた方も一緒に力強く朗読されました。

▼人権擁護都市宣言文朗読



表彰状授与▲

市内巡回展を開催

(2018年12月10日～2019年2月26日)

平成30年度人権啓発作品入選者の作品を、市内10か所で巡回展示しました。力強い作品を身近に触れて、さらに地域の輪が広がればと願います。

【今年度の作品展示施設】

富田ふれあい文化センター・春日ふれあい文化センター～如是公民館～阿武山公民館～柳川コミュニティセンター～城内公民館～日吉台公民館～磐手公民館～清水コミュニティセンター～今城塚公民館



阿武山公民館
展示コーナー

地域が元気でいきいきと

高槻市人権まちづくり協会は、中学校区ごとに地区単位会を設置し、地域の様々な団体と連携しながら人権講座や研修会など、市民が中心となり心豊かなまちづくりに取り組んでいます。

校区名	主な活動内容
一中	日 時 平成30年11月30日(金) ふれあいアップ講座 テーマ 「南の島沖縄…学ぼう、命の絆・大切さ」 共 催 城内公民館・第1中学校区地区単位会
二中	日 時 平成31年2月28日(木) ふれあいアップ講座 テーマ 「街頭紙芝居師つるちゃんが伝える ～平和といのち～」 共 催 真上公民館・第2中学校区地区単位会
三中	日 時 平成30年12月22日(土) テーマ 「 <small>あかつきのこえ</small> 暁ノ聲 ～今こそ地域でつながろう～」 主 催 柳川中PTA・3中PTA、柳川中・3中地域教育協議会 協 力 第3中学校区地区単位会
四中	日 時 平成30年9月18日(火) 人権教育講座 テーマ 「愛着障がいへの理解と支援」 主 催 高槻市教育委員会 後 援 第4中学校区地区単位会
六中	日 時 平成30年10月21日(日) 松原 大冠 Let's enjoy 秋フェスタ テーマ 「おめでとう5周年!これからも素敵なまちへ」 主 催 松原・大冠校区青少年健全育成協議会 松原・大冠校区フェスタ実行委員会 協 賛 第6中学校区地区単位会
七中	日 時 平成30年7月26日(木) ふれあいアップ講座 テーマ 「結んでつなく地域の輪」 共 催 三箇牧公民館・第7中学校区地区単位会
八中	日 時 平成30年10月31日(水) ふれあいアップ講座 テーマ 「被災者として ～東日本大震災の体験から～」 共 催 磐手公民館・第8中学校区地区単位会
九中	日 時 平成30年5月29日(火) ふれあいアップ講座 テーマ 「アンガーマネジメントを身につけよう」 共 催 北清水公民館・第9中学校区地区単位会
十中	日 時 平成31年1月19日(土) スポーツ交流会 テーマ 「10中生徒とPTAと地域住民との交流会」 共 催 10中ブロック青少年健全育成連絡協議会・ 第10中学校区地区単位会
阿武野・阿武山中	日 時 平成31年2月19日(火) ふれあいアップ講座 テーマ 「大阪のおばちゃんに学ぶジェンダー平等地域の輪」 共 催 今城塚公民館、阿武野・阿武山中単位会
冠中	日 時 平成30年7月30日(月) ふれあいアップ講座 テーマ 「共に生き、共に暮らすインクルーシブな社会とは」 共 催 南大冠公民館・第6中学校区地区単位会・ 冠中学校区地区単位会
川西中	日 時 平成31年1月29日(火) ふれあいアップ講座 テーマ 「人口減少大丈夫?外国人労働者とこれからの日本」 共 催 芥川公民館・川西中学校区地区単位会



南の島沖縄…学ぼう、命の絆・大切さ



愛着障がいへの理解と支援



結んでつなく地域の輪



被災者として ～東日本大震災の体験から～



スポーツ交流会

校区名	主な活動内容
如是中	日 時 平成30年10月24日(水) ふれあいアップ講座 テーマ 「自然と共に楽しく生きよう ～自然から学ぶ人の生き方～」 共 催 如是公民館・如是中学校区地区単位会
芝谷中	日 時 平成31年2月25日(月) ふれあいアップ講座 テーマ 「てんやく絵本にかけろ ～誰もが絵本を楽しめる社会へ～」 共 催 日吉台公民館・日吉台コミュニティ連絡協議会・芝谷中学校区地区単位会
城南中	日 時 平成30年8月25日(土) 「平和と人権の集い」ふれあいアップ講座 テーマ 「『ヒロシマに歳がないんよ』～佐伯敏子さんの心を引き継ぐ～」 共 催 春日ふれあい文化センター・城南中学校区地区単位会

三校区合同バス研修を実施

▼さかい利晶の杜視察
(六中・冠中・川西中)

三校区(中学校区)の単位会が合同で人権バス研修を実施しています。各単位会が主体となって先進地や研修内容を検討し、今年度は下記のところを視察しました。



30年度バス研修実施状況

中学校区単位会名(合同)	主な視察研修先
六中、冠中、川西中	さかい利晶の杜(大阪府堺市)
二中、七中、十中	立命館大学国際平和ミュージアム(京都市)
三中、四中、阿武野・阿武山中	舞鶴引揚記念館(京都府舞鶴市)
一中、九中、芝谷中、未組織校区	舞鶴引揚記念館(京都府舞鶴市)
八中、如是中、城南中	震災資料保管庫(兵庫県神戸市)

広島平和公園に折り鶴奉納

平成30年度平和展にて折られた千羽鶴や、地域の団体から寄せられた千羽鶴を、12月14日(金)広島平和記念公園へ奉納しました。皆様の平和への願いが届きますように。



平和展にて、地域・子供会から寄贈された千羽鶴を奉納

社員研修を実施

平成30年度社員研修を、平成30年9月19日(水)に実施、神戸市深江にある震災資料保管庫に29名で訪れました。

この震災資料保管庫は1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災で、甚大な被害を受けた阪神高速道路が、地震の証だけでなく、震災を教訓とした新たな技術、災害支援、防災教育のために構造物を抽出、保管しているものです。



破壊した構造物や新型の模型が保管・展示されている



当日は当時道路復旧に携われた職員の方から、構造物に働いた自然の力を詳しく解説していただき、この地震により生まれた人間の英知をいかし、今後災害が少しでも軽減されればと語られました。何よりもまずは自分や家族の命を守る努力から…と話され、自助という大切さを感じる研修でした。

高槻市人権まちづくり協会創設10周年記念事業

「笑顔でふれあい 人づくり まちづくり」を開催

平成30年10月13日（土）、市生涯学習センターにて、高槻市人権まちづくり協会創設10周年記念事業（共催：高槻市）を開催しました。

第1部のセレモニーでは、高槻市をはじめ、府や他市から関係諸団体を来賓としてお招きし、「人権」に携わり、ともに歩んできた10年を祝しました。また協会発足当初から人権草の根活動にご尽力を頂いている各中学校区地区単位会に10年にわたる活動への感謝状と記念品を贈呈しました。



創設10周年記念セレモニー



各単位会「10年の活動紹介」

協会から10年のあゆみを報告しました。ロビーでは各中学校区地区単位会の活動をパネルで紹介しました。

協会から10年のあゆみを報告しました。ロビーでは各中学校区地区単位会の活動をパネルで紹介しました。



来賓のご紹介



落語家 桂七福さん

第2部の人権講演会では、落語家の桂七福さんを迎え「気づけば高まる人権意識 ～日頃の言葉に少しの気づかい～」という演題で講演され、私たちの日常のなかで少しの「気づき」や「言葉」で変わるんだというお話を、落語で面白可笑しく語りかけられました。「人権」を難しく考えすぎず、肩ひじをはらずに…早速今から活かせそうなヒントを頂きました。

協会ニュース



高槻市人権まちづくり協会は個人賛助会員（年会費無料）、団体賛助会員（年会費5,000円）、法人賛助会員（年会費10,000円）を募集しています。人権情報誌の配布、講演会の案内、講演会の企画・調整のご相談等を受けております。

●詳しくは高槻市人権まちづくり協会事務局まで
高槻市桃園町4-15 市水道部庁舎 電話 647-7825 FAX 647-7233

人権講演会 「心の豊かさを求めて」



テーマ 「心と心をつなぐ防災
～人と人とのコミュニケーションが産む絆～」

日時 6月1日（土）
14時～（開場 13時30分～）

会場 市生涯学習センター
2階多目的ホールにて

定員 先着300名
入場無料（保育あり）

講師 落語家 桂福丸さん



編集後記

幼い日、5円玉をにぎりしめ、毎日通った空き地。紙芝居のおっちゃんの吹くけたたましいラッパの音に吸い寄せられ、3、40個の笑顔が集合！感情移入抜群の「〇〇天狗」や「〇〇剣士」に魅されたあの日が、今号の「塩崎おとぎ紙芝居博物館」訪問により鮮明によみがえった。

べっこう飴の型ぬきが上手く出来たり、「とんちクイズ」に正解したら、飴がもう一つもらえてラッキー。

おっちゃんが島（昨年、話題の周防大島）に住み込んだ日から町の変わりようはハンパなかった。外でたくさんの人に出会い、大人も子どもも話題が増え、もっと深く深く仲良しになれた。

私はこの時目覚めた「とんちクイズ」に60年もの間とりこになり、下手の横好きも手伝ってこれを片手に、今、施設を巡っている。

ありがとう、今は亡き紙芝居のおっちゃん！

編集発行／一般社団法人 高槻市人権まちづくり協会（☎647-7825）

「あくていぶ」は協会ホームページからもご覧になれます。 <https://www.takatsuki-jinmati.org/>

高槻市人権まちづくり協会



<https://www.facebook.com/takatsuki.jinmati/>